

○愛玩動物看護師の養成に必要な科目について(認定動物看護師コアカリキュラムとの比較を含む) ※第2回WTからの変更点は、黄色セル・赤字箇所

注1)科目番号は便宜的に付与したもの

注2)単位時間、回数、単位時間小計は、認定動物看護師コアカリキュラムをベースにし、全体として1,800時間に収まるよう調整した。なお、示した時間数は、養成所において実施する際の授業時間数である。

科目番号	分類	科目名	時間数	(国家資格カリキュラムでの位置)
A	基礎動物看護学	動物形態機能学	120	(2)に移動)
B		動物繁殖学	30	(3)に移動)
C		動物病理学	30	(10)に移動)
D		動物薬理学	60	(11)に移動)
E		動物感染症学	90	(12)に移動)
			330	

F	応用動物看護学	動物看護学概論	60	(9)に移動)
G		動物医療関連法規	30	(7と8)に分割)
H		公衆衛生学	60	(13)に移動)
I		人間動物関係学	30	(2)に名称変更、一部は20及び22
J		動物福祉・倫理	30	(1)に名称変更)
K	基礎動物看護学	動物行動学	30	(4)に移動)
L		伴侶動物学	60	(20)に名称変更)
M		産業動物学	45	(6)に統合)
N		実験動物学	15	(6)に統合)
O		野生動物学	30	(6)に統合)
			390	

P	臨床動物看護学	動物内科看護学	30	(14)に移動、一部は20へ)	
Q		動物外科看護学	60	(15)に移動)	
R		動物臨床看護学総論	30	(16)に移動)	
S		動物臨床看護学各論	120	(17)に移動)	
T		動物臨床栄養学	60	(5)に移動)	
U		動物臨床検査学	60	(18)に移動、一部は14へ)	
V		動物医療コミュニケーション	30	(19)に移動、一部は22へ)	
			390		

W	実習	動物形態機能学実習	45	(25)に移動)
X		動物内科看護学実習	90	(26、30)に分割)
Y		動物臨床検査学実習	90	(27)に移動、一部は26へ)
Z		動物外科看護学実習	90	(28)に移動)
AA		動物臨床看護学実習	45	(29)に移動)
AB		動物看護総合実習	180	(31)に移動)
			540	

合計 1650

科目番号	分類	科目名	認定動物看護師科目番号	単位時間小計	資料1-1の頁番号	科目の概要
1	基礎動物学	生命倫理・動物福祉	J	30	2	生命倫理の考え及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。
2		動物形態機能学	A	120	3~4	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。
3		動物繁殖学	B	30	4、5	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。
4		動物行動学	K	30	5、6	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
5		動物栄養学	T	60	6、7	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。
6		比較動物学	M,N,O	60	7、8	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。
7		動物看護関連法規	G	15	8	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。
8		動物愛護・適正飼養関連法規	G	15	9	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方を理解する。
単位時間小計				360		

9	基礎動物看護学	動物看護学概論	F	30	10	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。
10		動物病理学	C	30	10、11	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
11		動物薬理学	D	60	11~13	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
12		動物感染症学	E	90	13、14	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。
13		公衆衛生学	H	60	14	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。
単位時間小計				270		

14	臨床動物看護学	動物内科看護学	P+U	90	15、16	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。
15		動物外科看護学	Q	60	17、18	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの 周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
16		動物臨床看護学総論	R	30	18、19	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。
17		動物看護学各論	S	120	19、20	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。
18		動物臨床検査学	U	30	21	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。
19	動物医療コミュニケーション	V	30	22	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	
単位時間小計				360		

20	愛護・適正飼養学	愛玩動物学	I+L+P	60	23	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。
21		人と動物の関係学	I	30	23、24	動物が人間社会で果たしている役割やその背景、歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態と課題等を含めて理解する。
22		適正飼養指導論	I+V+新	60	24、25	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。
23		動物生活環境学	新	30	25、26	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備 ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備及び管理運営の方法、リスクアセスメントやマナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。
24		ペット関連産業概論	新	30	26、27	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。
単位時間小計				210		

25	実習	動物形態機能学実習	W	30	28	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	
26		動物内科看護学実習	X+Y	120	28、29	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
27		動物臨床検査学実習	Y	60	29	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	
28		動物外科看護学実習	Z	90	30	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
29		動物臨床看護学実習	AA	60	30、31	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
30		動物愛護・適正飼養実習	X+新	60	31	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	
31		動物看護総合実習	AB	180	32	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	
単位時間小計				600			

合計 1800